

データサイエンス共同利用基盤施設
令和３年度 第４回運営会議 議事概要

日 時：令和４年２月２１日（月）１０：００～１２：００

場 所：ウェブ会議（Zoom を利用）

出席者：

【外部委員】近藤委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、中井委員、堀委員（副議長）、
矢嶋委員、横山雅之委員

【内部委員】藤山委員（議長）、小原委員、門倉委員、前田委員、北本委員、野口委員、
上野委員、野水委員

【陪席】 五斗副センター長、荒木特任教授、金川特任専門員、橋本副課長、
昨間 DS 推進係長、田河係員

議 題：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしており本会議が成立することが報告された。

審議事項

１．前回議事要旨確認

藤山委員から、修正意見等がある場合は会議終了までに申し出るよう発言があり、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

２．令和４年度人事について（新規（配置換・採用）、継続）

門倉委員から、資料２－１・２－２（回収資料）に基づき、配置換２件について説明があり、審議の結果、承認された。北本委員から、同資料に基づき新規採用１件について説明があり、審議の結果、承認された。

続いて藤山委員から、資料２－１に基づき継続（採用・兼務・客員）の各件について説明があり、審議の結果、承認された。

３．２０２２年度公募型共同研究の募集について

橋本副課長から、資料３－１～３－３に基づき、(1)審査要項の変更点として書類審査委員を全て機構外委員にすること等、(2)日程については前年度から大きな変更はせずに実施する旨、(3)システムについては新システムへの切り替え時期だが DS 施設ではテストが済んでおらずどちらを使用するかは未定である旨の説明があった。審議の結果、承認された。

続いて藤山委員から、資料３－４に基づき、公募型共同研究のこれまでの課題の採択状況および参加機関分布等について説明があった。

4. DS 施設規程の改正について

橋本副課長から、資料 4-1 および 5-1 に基づき、機構組織運営規則の DS 施設関連条文について、令和 4 年度概算要求事項である 3 拠点の追加及びセンター長の指名が「機構長が指名した」と定められているのを人事選考権限が施設長に委任されていることから「施設長が指名した」と変更するための手続きを行う旨説明があった。

以下の質疑応答を行った。

- ・3 拠点には運営責任者のポジションは置かれるのか。置かれるのであれば規則に記載されるのか。

→概算要求で人件費を認められたのは 1 拠点のみで、拠点のデザインは令和 5 年度の概算要求と関連して検討していく。

- ・センターと拠点が並記されるとのことで、両者はどのようなつながりになるのか。資料 5-1 の図によると、バイオデータ拠点と日本文化ビッグデータ研究ハブが密接に活動するという理解でよいか。

→3 拠点はそれぞれ他研究所、あるいは他機構との連携を予定している。令和 4 年度概算要求時の文科省からの要請の結果要求事項を統合することとなり、種類で分類している。

- ・データサイエンス教育・育成拠点のねらいは何か。

→重層構造で、データサイエンスの教員育成は統数研との連携により進め、もう一つは ROIS が機構として実施している様々なデータサイエンスアクティビティの連携を図る目的がある。

- ・拠点の名称から横断する組織というイメージが浮かばない。

→具体的な名称を機構内で検討する際に参考にしたい。

審議の結果、この案で進める旨承認された。

報告事項

5. 令和 4 年度および 5 年度概算要求について

藤山委員から、資料 5-1 に基づき、令和 4 年度概算要求は組織整備分として 2 名（統計教員 1 名、全体マネージャー 1 名）の要求に絞り込み、当初この 2 人以外に予定していた 3 人は次年度以降に要求していく旨、資料 5-2 に基づき、文科省からの示達として上記教員 2 名の人件費に事業推進費等と合わせて 64,223 千円が新規に認められた旨、また第 3 期に重点支援分として配分されてきたうち基幹経費化された額は第 4 期に持ち越しとなり DS 施設の基盤の経費となる旨の説明があった。

続いて荒木委員から、資料 5-3 に基づき、令和 5 年度概算要求として前年度積み残し分を含め 7 名の要求、プロジェクト経費として DDBJ で使用するスーパーコンピュータのストレージ拡張費用を要求する旨の説明があった。

藤山委員から、文科省が概算要求していたデジタル人文学の概算要求は認められず、次年度以降に持ち越しとなった旨の報告があった。

6. 第 4 期中期目標、中期計画について

五斗委員から、資料6－1に基づき、情報・システム研究機構第4期中期目標・中期計画のDS施設に関連する箇所として、バイオデータ研究拠点を形成し研究コミュニティと連携していくこと、バイオデータのデータセット提供・ハッカソンの開催、センター独自の活動に加えて異分野融合や様々な機関との連携を進めていくこと等を掲げている旨の説明があった。

藤山委員から、中期目標・中期計画はこの後大幅な変更はない見込みで、文科省の審査を経て文科省から公表される旨の補足があった。

7. 第2回DS成果報告会について

橋本副課長から、資料7－1に基づき、1月27日開催の第2回DS成果報告会について、第3期の終わりにあたり本運営会議委員等による招待講演とセンター活動報告、Spatial Chatを使用したポスターセッションの構成により開催した旨の説明があった。

8. DS施設の第4期運営体制について

藤山委員から、第4期は第3期の6センター1推進室体制に加えて研究拠点の設置を進め、基幹経費を確保した状態で開始する旨の説明があった。

その後、次期施設長として荒木委員の紹介があり、荒木委員から、第4期は外部との関係を強めてDS施設をさらに発展させていくため協力いただきたい旨の挨拶があった。

9. その他

藤山委員から、第3期中の運営会議委員の尽力に謝辞が述べられた。

また、第4期に向けて委員から次の発言があった。

- ・第4期に拠点がどう動いていくのか関心がある。DS施設が分野融合を支える組織になっていくことを期待している。
- ・あらゆる大学がDS教育を進めており、そのような機関とも連携を広げて、日本全国の司令塔として発展してほしい。
- ・人間文化研究機構において、デジタルヒューマニティの推進を担うため、DS施設との協力体制を作っていきたい。
- ・第4期には海外のDBとの連携などに活動を広げていただきたい。
- ・バイオデータ研究拠点の発展に期待しており、データを産出する活動、それを既存のデータと組み合わせて価値のあるデータリソースの提供を検討してほしい。
- ・DS施設には、変化をチャンスに変えて発展してほしい。
- ・自然科学研究機構にはデータサイエンスのニーズもシーズもあり、アライアンスの活動も含め連携を深めていきたい。
- ・6年前と比べてデータサイエンスの重要性はさらに増している。DS施設には日本の司令塔の役割を担ってほしい。

資 料：

0－1	データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿	P. 3
0－2	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程	P. 4
1－1	令和3年度第4回運営会議議事概要（案）	P. 6
2－1	令和4年度人事案件 審議対象者リスト [回収資料]	画面共有
2－2	令和4年度人事案件 審査資料 [回収資料]	画面共有
3－1	ROIS-DS-JOINT2022 審査要項（案）	P. 9
3－2	募集要項（和文案、ウェブページ）	P. 14
3－3	募集要項（英文案、ウェブページ）	P. 19
3－4	（参考）件数推移、参加者所属機関分布	P. 24
4－1	情報・システム研究機構組織運営規則（抜粋：第58条（DS施設））	P. 31
5－1	R4 概算要求資料（教育研究組織改革分（組織整備）の概要）	P. 32
5－2	R4 概算要求結果（教育研究組織改革分 予算額内訳）	P. 38
5－3	R5 概算要求資料（教育研究組織改革分【総表】）	P. 39
6－1	（参考）第4期中期目標期間における大学共同利用機関法人中期目標大綱（1月11日版）	P. 40
7－1	第2回DS成果報告会の結果報告	P. 73